

試験研究成果普及情報

部門	内水面	対象	研究・普及
課題名：河川で養殖されるアオノリの生息に適した環境			
<p>[要約] 河川で行われているアオノリ養殖において生産の安定化に必要な漁場環境を明らかにするため、生産に適した水温、塩分環境を検討した。秋季の採苗時の水温は 20～15℃、塩分は 20psu 以下になることが必要であり、葉体伸長期では 15～10℃、20psu 以上が適当と考えられる。</p>			
キーワード アオノリ、養殖、河川、環境、生育条件			
実施機関名	主 査	水産総合研究センター内水面水産研究所	
	協力機関	勝浦水産事務所	
実施期間	1998 年度～2021 年度		

[目的及び背景]

千葉県河川ではアオノリの養殖が行われている。このアオノリは「スジアオノリ」という種類で海水の影響がある河口近くで生産され、地域の食文化に根ざした特産品として重要である。しかし、天候や河川環境等の影響を受けやすく生産が不安定であることから、環境に対応した養殖技術の改良が望まれている。このため養殖が行われている、夷隅川、一宮川、南白亀川の 3 河川で各漁場の環境を把握し、漁場に合わせた養殖管理技術を確立するための検討を行った。

[成果内容]

- 1 一宮川、南白亀川、夷隅川の漁場環境は大きく異なっていたが、アオノリ養殖に適した水温は採苗を行う 10 月上旬では 20～15℃、葉体伸長期では 15～10℃と考えられた。
- 2 塩分は採苗時に 20psu 以下になることが必要であるが、10 月中旬以降に降雨が続き 20psu を下回る状態が続くと芽が脱落し、10psu 以下になると葉体の流出が生じることが明らかになった。
- 3 漁場の透明度は、10 月中旬以降の葉体伸長期に、川底（1～1.5m）まで達することが必要と考えられる。
- 4 害藻であるシオミドロ、アナアオサは高塩分環境で繁茂が見られ、シオミドロは低水温や一時的な塩分低下で衰退するが、アナアオサは低水温に強く低塩分でも衰退しない。これらの害藻の繁茂状況は、スジアオノリの芽付きの多寡と環境に影響されていた。

[留意事項] なし

[普及対象地域] 県内外房アオノリ養殖地域

[行政上の措置] なし

[普及状況]

あおのり養殖研究会において、各年度の環境調査の結果等を報告し、アオノリの生息環境に合わせた養殖技術について検討を行った。

[成果の概要]

緑の網掛けがスジアオノリの生息に適した環境

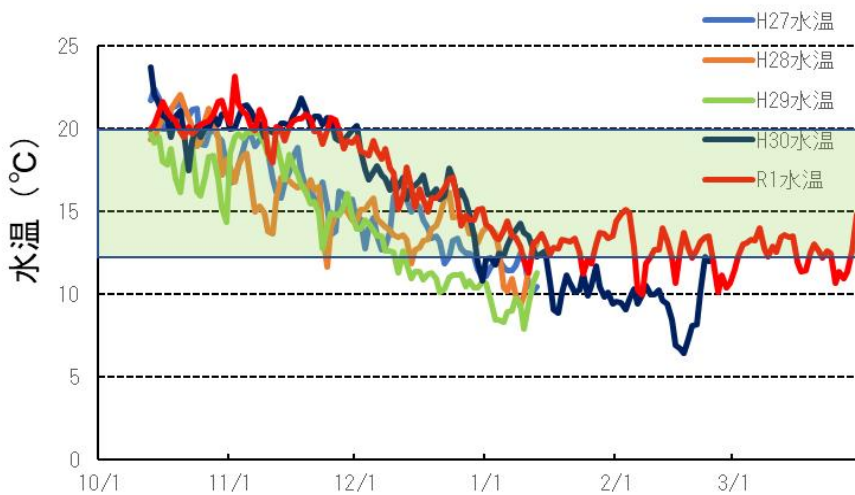


図1 近年のアオノリ漁場の水温
(一宮川 水面下50cm : H27~R1)

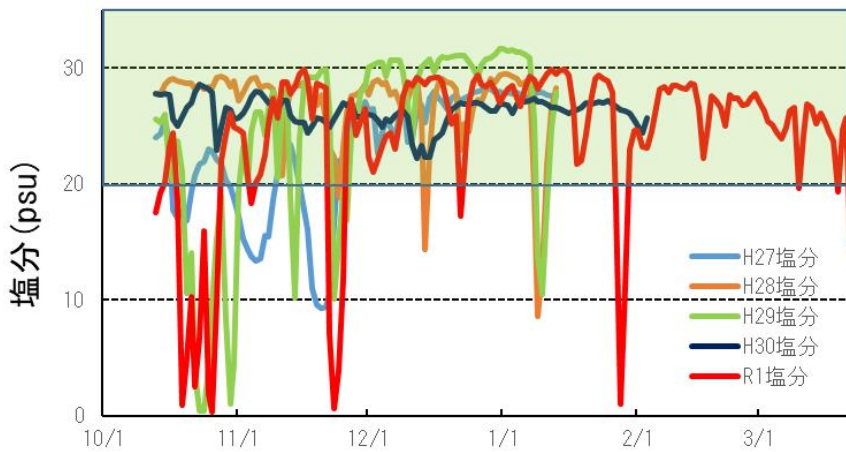


図2 近年のアオノリ漁場の塩分
(一宮川 水面下50cm : H27~R1)



ノリ網で伸ばしたスジアオノリ

[発表及び関連文献] なし

[その他] なし